

田原市 楽友協会だより

2008年3月

文化を育てる魅力ある町（天竜二俣町）

アンサンブルトレーナー 森下 昇

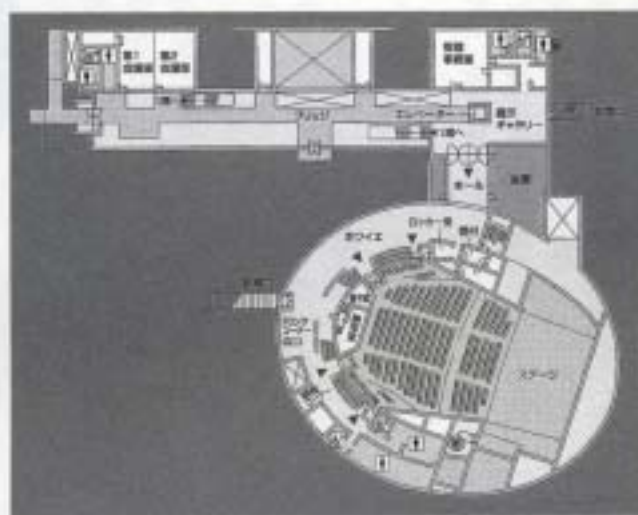
私は、或る日訪れた天竜市の「秋野不秋美術館」の印象をわすれることは出来ない。豊橋音楽評論家の石田康太郎氏と、今は亡き音楽家の川上均先生と共に駐車場から美術館までの急な坂道を、息をはずませて登った記憶は、いまだに色あせていない。その後、天竜市は浜松市に合併され佐久間のはてまで浜松市ということになった。まさに時代の変貌といえよう。

一方、美術館の高台から望める町並の一角に、平成十四年に建てられた天竜市民ホールがある。壬生ホールとよばれているが、西暦六〇七年頃から天竜二俣町あたりが壬生の里と呼ばれた由来からホールの名前をつけたということである。設計者は中央の方と聞いているのだが、上空から見れば建物の全体は音符の型に設計され、オタマジャクシの符頭のなかにステージと客席が配分されている。全体の三分の一はステージ、三分の二が客席である。

ステージの広さは八十名から百名のオーケストラメンバーが並んでも充分な余裕がある。見上げれば天井は高く、客席・ステージ共に理想的だと感じた。ただ、ホールの運営委員の話によると、イベントの入場料設定には頭を痛めているとのことだ。少なくとも五〇〇席ではなく一〇〇〇席をのぞめばよかったですと反省をしている由。このような素朴な田舎町で五千円以上の入場料はいただけないという話もわかるような気がする。

総工費三十億、キャパシティ五〇二席、年間可動率六十五%、平成十四年に完成されたこのホールで、友人のピアノリストがCDを制作することになり、私も手伝う羽目になった。さすがに世界

の名器といわれるスタンウェイが舞台の中央に運ばれていた。客席の前列からステージまでの高さは申し分ない。ステージ上でも、客席のすみずみまで音は通り、クロスすることもなく、残響も2秒を少しされる感じだ。ホール内の材質は、木とコンクリートを使い内装も落ち着いた色調に仕上げられている。音響は計算だけではわからない世界だといわれるが、偶然であるのか実のところこちよ自然な音が伝わるホールだと、ほとほと感心した。



それにしても、この町の美術館といい壬生ホールといい、民意を受け止め実行に移した行政の力もさることながら、まさに着々と個性ある町づくりを推進する姿にある種のうらやましさを感じながら帰途についていた。
田原市はまだまだなのだろうか。

夢が叶った！「サウンド・オブ・ミュージック」

ジュニア合唱教室指導者 木全 元子



ジュリー・アンドリュース演じる「サウンド・オブ・ミュージック」のマリア役は、私の三十年来の憧れでした。それがミュージカルの公演という形で実現できたことに最高の喜びと幸運を感じています。

思えば公演までの四カ月間は、寝ても覚めても舞台のことはかり考えていました。映画のストーリーと楽譜はあるものの、それを私達の身の丈に合ったミュージカルに仕立て直すという手作業は、予想以上に大変なことで、当初は、しばしば途方に暮れたものでした。

また、ジュニア合唱教室の五十名近い子どもたち全員をなるべく平等に、どう活躍させたらよいのかということも大きな課題でした。色々な方法が考え

られるたびに随分と悩み、色々と思いを交換しました。(結果的には全ての子どもたちを舞台に乗せ、歌ってもらったことにしました。この一曲ごとに列を移動し、最前列の時に踊ったり演技をするという、一曲主役のグループ分けの方法は、子どもたちのチームワークも深まって、大変良かったと思います。)

このように一つ一つ悩みながら迷いながらも、関係者の方々の知恵と苦心と善意のお陰で、手作りのミュージカルは、いつしか私の想像を越えるものに仕上がっていききました。

特に、スタッフの中村日奈子さん、森下恵美さん、酒井修さん、近藤信子さん、事務局の金子智子さんには、私以上にこの舞台に心血を注いでくださり、感謝の言葉もありません。

また、再編成間もない田原混声合唱団の方々の出演、あきらめかけていた私を後押しして下さった中川啓子先生、タハラジャ座長の藤田直秀さん、吹奏楽の関係者の方々・・・等、気が付けば、なんと百名近い方々の参加協力でこのミュージカルができたことに感激しております。

しかし、一番褒め称えるべきは、やはり子どもたちの頑張りではないでしょうか。本番のことでもたちの歌や演技は、生き生きとじていて本当に素晴らしいかっと思えます。そして、私はそんな子どもたちに囲まれて、心の底から舞台を楽しむことができました。何という幸せ！夏休みの臨時練習にも、猛暑の中をよく参加してくれた子どもたち。そしてその子どもたちを暖かく支え、励まし、協力して下さった保護者の皆様。

そんな沢山の方々のお陰で「サウンド・オブ・ミュージック」の公演は大成功を収めることとなりました。

本当にありがとうございました。
心より感謝申し上げます。



私とピアノ



ピアニスト 金沢 美奈子



私が赤ん坊の頃の泣き声は相当なもので、両親は随分と苦労したそう。そんな私が「タツ」と泣き止んでしまふ、不思議な場所が家にはあった。

かつて我が家には深いエンジ色のピアノがあった。堅型のいわゆるアップライトピアノである。母が子供たちにレッスンをしているその足元で、すやすやと寝ていたそう。私とピアノはこうして出会った。幼少期の子守歌に始まり、音楽が楽しいものだということを教えてくれた。

高校生になり、相棒は黒色で平型のグラントピアノになった。ここから練習と本番に追われる学生生活が始まった。何度も壁にぶつかり、悩み悔しくて泣いた。爪が剥がれて血が出て、テーピングして練習した。こんなに辛い思いをするならやめてしまえと、そう思って蓋を閉めても翌日になつたらまた開けて練習する。きつとエンジ色のピアノの記憶がそうさせているのだと思う。

以前、音楽家は壁に向かって練習するだけでは良い演奏家にはなれないと聞いたことがある。観客に向かって演奏することで一体となり、その場限りの音楽が生まれる。最近になって、きつと色々な事が理解できるようになった。まだまだ勉強不足ではあるが、心に響く演奏を目指し、真摯に音楽と向かい合っています。
エンジ色と黒色のピアノと一緒に。



平成十九年度の活動

【青少年育成事業】

●金管楽器教室 小学生高学年対象

●ジュニア合唱教室 小学生対象

活動日 毎月第①③土曜

活動実績 サンテバルクスプリングコンサート

音楽祭 家庭の日コンサート

童謡唱歌を歌う会

●ジュニア吹奏楽団 中・高校生対象

活動日 毎月第①③土曜

活動実績 音楽祭 吹奏楽フェスティバル

田原市民まつり 福祉のつどい

定期演奏会

もう一つの部活

田原市立東部中学校 鈴木 夢美

田原市ジュニア吹奏楽団では、やっぱり吹奏楽は楽しいなと思いました。私が

やっている楽器はあまり有名なものではありません。でも、この楽団でいろいろな曲の中でソロがあったり、

新しい挑戦をすることで自分と自分の楽器に自信を持つて演奏することができました。

これから、楽しんで演奏していけたらいいと思います。それとともに、技術を上げていきたいです。



【ホール事業】

●第六回田原市音楽祭 田原文化会館文化ホール

六月二日(土)ジュニア・学生の部

出演 田原市ジュニア吹奏楽団

野田中学校プラスバンド部

赤羽根中学校プラスバンド部

東部中学校吹奏楽部 田原中学校吹奏楽部

渥美農業高校吹奏楽部 成章高校吹奏楽部

六月三日(日)一般の部

客演 藤本 尚子(オーボエ)

二宮 咲子(ソプラノ)

藤城 敬子(ピアノ伴奏)

出演 ジュニア合唱教室 渥美混声合唱団

田原市吹奏楽団

●家庭の日コンサート

「サウンド・オブ・ミュージック」

八月十九日(日)

出演 (マリア) 木全 元子

(ドラップ大佐) 藤田 直秀(タハラシヤ)

ジュニア合唱教室 田原混声合唱団

田原市吹奏楽団

●家庭の日コンサート

「あぐたむ合唱」コンサート

十一月二十三日(祝)

客演 井垣 杜太(ピアノ)

出演 田原混声合唱団 ジュニア合唱教室

●家庭の日コンサート

「アンサンブルコンサート」

一月三日(日)

出演 田原市吹奏楽団 御津吹奏楽団

豊橋ウィンドシンフォニア

【自主事業】 田原文化会館 多目的ホール

●第五回 CDコンサート講座

クラシックをあなたのそばに。

魅惑をただよわせたチャイコフスキーの音楽

五月二十日(日)

講師 森下 昇

●童謡・唱歌を歌う会「三拍子の童謡唱歌」

十月二十日(土)

講師 木全 元子

伴奏 森下 恵美

賛助 ジュニア合唱教室

●第六回ニューイヤースロンコンサート

一月二十七日(日)

出演 大竹 広治(バイオリン)

藤城 敬子(ピアノ)



それまで合唱を聞いた記憶も殆どなく、全く関心もなかった私が始めて合唱に出会ったのは大学の入学式の日、新入生歓迎と勧誘の目的で歌っていた早稲田大学グリークラブの男声合唱でした。繊細目つ力強く美しいハーモニーに感動、自分も一緒に加わり演奏出来たらいいなと思いつき、未経験者も居るのかどうか受付の先輩に尋ねたところ、未経験者も沢山居り心配ないと言われ入部することにになりました。

入部後は平日毎日夕方二時間の練習、春休み、夏休み夫々一週間の合宿と演奏旅行、十一月の定期演奏会、三月の送別演奏会等の単独演奏会の他、東京六大学、東西四大学演奏会では伝統を競い合い、大学四年間はまさに合唱中心の生活でした。

卒業後は仕事が忙しかつた事と、少し少し合唱部と云う組織から開放されたいと云う気持ちから00Bの合唱団とは距離を置く事となりましたが、四十才を過ぎ合唱の盛んな札幌へ転勤となり大学の先輩から誘われたのを機にまた歌い始め北大00Bの方々とは合唱と酒を楽しませてもらい良い友達と良い思い出作りとなりました。

定年を迎えるに当たり、取り敢えず家庭菜園と合唱をやるうと思いついた田原にも混声合唱団があると聞いていたので入団しようと考えていたところ、十八年十二月始め頃田原混声は休部になると聞かされ、紹介された豊橋の男性合唱団ふんけんクラブに十九年一月入会、その後田原混声が再開した為入部、現在二つの合唱団に所属し時には更に別の合唱団でも歌っています。

こちらへ帰ってきて淋しく感じるのは、合唱に対する地域の関心の低さです。大学が近地に余り無い事、職場が少ないため卒業後田原へ戻らない人が多い等々の理由が考えられますが、かつて田原中部小学校が子ども音楽コンクール全国大会で文部科学大臣賞を取った輝かしい

実績もあるのに期待したいところです。

合唱は歌うことの楽しさに加え健康、仲間作りにも役立つ。立ち老後の趣味にももって来いでもし合唱をやっていたければ毎日暇つぶしに困っていたであろうと考えると、学生時代に合唱をやっていた良かったなあと今強く感じています。

これからは合唱を自分の生活の一部として楽しみながら、今までの経験を生かし合唱の地域振興と所属合唱団のレベルアップに役に立てるよう仲間と一緒に歌い続けたいと思います。



H19年度田原市楽友協会にご賛助いただいた方々です。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

【敬称略】

伊藤	又次	伊藤	オオタ	ワークス
白井	孝	伊藤	三	愛
森	チ	森	また	眼科
森	下	森	富永	医院
河	下	河	葉子	蔵
河	崎	河	タカ	サキ
河	辺	河	富田	接骨院
三	浦	三	髪ing	なつめ
山	田	山	祐福	寿園
山	本	山	メガネ	の尾沢
			ラヴィ	グレ

* 20年度会員募集 *

田原市楽友協会では平成20年度の会員を募集します。

素敵な音楽に出会いたいと思いませんか。

どなたでもお気軽にお楽しみいただけます。

あなたの力が会を支えます。応援してください。

個人会員年会費：1,000円

法人会員年会費 1口：5,000円

1口：5,000円の賛助金も受け付けてあります。

【問合せ・申込み先】

田原市楽友協会 TEL/FAX 22-0666 (森下)

TEL/FAX 23-2683 (金子)

田原市楽友協会だより
発行 平成20年3月
発行者 森下 晴世

編集後記 『夢の実現』

早いもので、楽友協会の活動を始めてから六年が過ぎました。音楽の楽しみを一人でも多くの方と分かち合いたい、演奏すること子どもたちと共に成長したい、その願いで関わって来ました。スポーツに比べ芸術の世界は理解しがたい部分があるかと思えます。感動のものさしは、タイムや距離では表せません。プロでも素人でも舞台で一生懸命演ずる姿は、私たちの心に訴えかけ響くものがあります。そのかけがえのない一瞬一瞬が生きて甲斐となり心の支えになります。そういった意味では、スポーツも芸術も学問も人生も、感動と夢を追い求める素材ですね。私も楽器を吹き続けられることに感謝しています。

素晴らしい演奏をもっと聴きたい、地域の音楽活動を活発にしたい支えたい、そのためには、環境と組織を整えること、多くの方の協力が重要です。

田原市楽友協会事務局長 金子 智子